

自主トレを終えて

日本で最先端のトレーニング施設として、国立スポーツ科学センターがありますが、オリンピック選手等の限られた人たちしか利用できません。日本には充実した施設がないので、アスリートはアリゾナなど海外に流出しているのが実情です。鹿屋体大には最先端の研究施設があり、優秀な研究者が集まっています。ただ、トレーニング機器の一部分が老朽化しているところもあり、段階的にトレーニング施設のインフラ整備が必要だと感じました。

今後、鹿屋体大に一流の施設が整えば、アリゾナにはないハイスピードカメラ等の最先端機器が鹿屋にあり、それをサポートする優秀な研究者・ドクターもいらっしゃるので、総合的なサポートができます。そうすると、様々なトップアスリートのスポーツ合宿のメッカになるはずで、単なる一球団とか一選手の枠を超えて、日本野球界全体に新しいものが広がっていく、そういう情報発信機関に鹿屋体育大学をしていきたいですね。

Interview



土橋恵秀氏 (34歳)
(和田毅投手専属トレーナー)

産学官連携の誘致とは
鹿屋体育大学と市内のホテル・飲食業と市が連携して、プロスポーツ選手等の合宿・自主トレのメッカとなるまちづくりを推進し、交流人口・入れ込み客の増加や地域活性化を図ろうとするものです。
今回、初めて産学官連携でスポーツ合宿まちづくり推進事業として、5球団からプロ野球選手12人を誘致しました。

Interview



繁昌良司氏 (49歳)

鹿屋市出身で、福岡を拠点に活動しているプロカメラマン。福岡ソフトバンクホークスの契約カメラマンでもあり、プロスポーツ選手に人脈を持ち、城島選手・川崎選手等に関する著書がある。今回のプロ野球選手誘致の立役者。

かのやを活気づけたい!

鹿屋市がどんどん廃れていくのがたまらなく嫌なので何とかしたいと思いました。「プロ野球選手がくれば人が集まり、夢が与えられ、全国報道されれば鹿屋の知名度も上がる」と思い誘致の話を持ちかけました。昨年のパ・リーグ最優秀選手 (MVP) で最多勝のソフトバンクホークスの和田毅投手が20日に自主トレを公開。報道公開にはテレビカメラ10台をはじめ、東京や福岡から60人以上の報道陣が集まり、全国に鹿屋が紹介されたことを嬉しく思います。

今回はプロ野球選手の誘致でしたが、この他にも、陸上選手やプロゴルファーなども自主トレに来たいという話が続々あります。プロ野球の一軍キャンプが集客力にはありますが、インフラ等の環境が整っていないので、トップアスリートたちの合宿のメッカとしての鹿屋市というのはいいのではないかと思います。スポーツ選手が鹿屋体大や鹿屋に来て、パワーアップできるようなまちづくりが1年を通じてできればいいなと思っています。

Baseball School



2



3



4

1 子どもたちにボールの握り方を教える和田投手

2 バッティングの見本を見せる黒羽根捕手
3 腕の振りを教える和田投手 4 18チームにはサインがプレゼント



プロの技を伝授

1月23日、鹿屋体育大学野球場で、福岡ソフトバンクホークスの和田毅投手たち5人のプロ野球選手による野球教室が開催され、大隅地区の小中学校スポーツ少年団や野球部など18チーム327人が参加しました。
指導したのは、和田投手と一緒に自主トレに参加したチームメイトの大場翔太投手、柳川洋平投手、横浜ベイスターズの黒羽根利規捕手、東京ヤクルトスワローズの赤川克紀投手。
生徒は、キャッチボール、守備、バッティングの3班に分かれ、2時間にわたって基本をそれぞれ教わりました。また、和田投手と大場投手がマウンドに上がり、生徒代表と対戦。
和田投手は最後に、生徒全員に向けて「厳しい練習を繰り返して、今のうちから体幹を鍛えてください。鹿屋市からプロ野球選手が誕生することを期待しています」と呼びかけました。

児童養護施設を訪問

1月25日、全ての自主トレを終えた和田投手たち5人は、児童養護施設大隅学舎を訪問。ゲームや質問コーナーなどで児童と触れ合い、サイン入りのスパイクやバットなどをプレゼント。児童は終始、笑顔で大はしゃぎでした。

